



広島研修



平和への祈り

あさひな こうすけ
弥富北中学校 朝日奈 康介

【被爆ピアノの過去】

原爆が投下されて 80 年。今も、被爆ピアノは大切に守られ、存在し続けています。壊れてしまっても何度も修理しようとする人、その思いを伝え続ける人など、多くの人の努力と願いがあって、被爆ピアノは今に受け継がれているのだと知り、深く感動しました。そのピアノの音色はとても優しく柔らかく、温かく人を包み込むように感じました。また、ピアノに込められた願いや、歌われた曲に込められた祈りの意味を知り、戦争の悲劇や恐ろしさ、そして二度と戦争を起こしてはならないという強い思いが伝わってきました。私は合唱の伴奏者として、実際に被爆ピアノを弾かせていただきました。言葉ではうまく表せませんが、学校のピアノとは違う感覚があり、被爆ピアノに込められた願いや思いを、音を通して受け止めることができたように感じました。このような貴重な体験ができたことを、心から嬉しく思っています。



【平和とは・・・】

平和とは、自然にあるものではなく、みんなで創り上げていくものなのだ、今回の広島研修を通して強く感じました。戦争が起これば、平和ではなくなるということは、誰もが知っている当たり前のことです。しかし、昔は「戦争が平和につながる」と考えられていた時代もあったのだと思います。今では、その過ちを多くの人々が理解し、「戦争は平和につながらない」という意識を、さらに強く持つことが大切だと感じました。そのためには、誰か一人でも行動を起こすことが必要です。そうでなければ、世界に平和は訪れず、戦争もなくならないと思います。実際に広島を訪れた私たちだからこそ、戦争とはどのようなものなのか、そしてどれほど恐ろしく悲しいものなのかを伝えていくことができると思いました。私たちの行動が、少しでも世界を平和に近づける力になればいいと思います。

広島に残る原爆の傷跡

ずしょ わかな
弥富北中学校 調所 和花奈

【平和記念公園で感じたこと】

平和記念公園にある原爆の子の像の前で、折り鶴の献呈式を行いました。私たちの前には、2校ほどが献呈式を行っていて、小学生が大きな声で平和宣言をしたり、平和を願う歌を歌ったりしていました。その様子を見て私は、原爆について学び、実際に広島を訪れ、世界の平和を願っている人は、私たちだけではないのだと感じました。また、平和記念公園には日本人だけでなく、多くの海外の方も訪れていました。私は、日本人として、海外の方が原爆に関心をもち、広島を訪れてくれたことをとても嬉しく思いました。

【広島研修を終えて】

今まで、さまざまな場面で原爆について学んできましたが、実際に広島を訪れ、自分の目で見た光景は、これまでの学習とは大きく印象が違っていました。平和記念公園にある多くの慰霊碑からは、「原爆の恐ろしさを決して忘れてはいけない」という強い思いが伝わってきました。私は、この広島研修で学び、目にした光景を一生忘れないと思います。

現在でも、世界には戦争をしている国があり、原子爆弾も多く存在しています。世界で唯一の被爆国である日本に住む私たちだからこそ、戦争や原爆の恐ろしさを、世界や未来の人たちに伝えていかなければならないと感じました。まずは、私にできることから始めていきたいと思います。

